



# 北陸経済連合会 第四次中期アクションプラン（平成28年度～32年度）

## 第三次中期アクションプラン（平成23年度～27年度）

### 策定後の主な環境の変化

#### 1. 少子・高齢化の一層の進展

⇒全国的に想定される人口構造の変化によって、労働力不足や経済成長の停滞が懸念されている。北陸地域と全国の将来推計人口の増減率とを比較すると、北陸地域は全国の減少率を上回る。今後は、子育てしやすい環境づくりや女性、高齢者の活躍促進が求められる。同時に、定住人口を増やすことで人口減少を少しでも食い止めることが求められる。

#### 2. 北陸新幹線

- (1) 敦賀までの平成34年度末開業決定(H27.1)  
⇒敦賀までの開業前倒しが決定したが、今後も引き続き、早期開業に向けた取組みと、大阪までのフル規格整備要望が課題となる。
- (2) 金沢までの開業(H27.3)  
⇒北陸新幹線の開業は、地域に様々な分野で経済効果をもたらしている。一方で、他の公共交通機関の需要変化への対応や、持続的な開業効果の維持等はこれからの課題である。

#### 3. 東日本大震災の発生(H23.3)

⇒エネルギー供給や物流面で大きな被害をもたらし、日本海側と太平洋側の連携強化と太平洋側の代替機能整備の必要性が改めて認識された。国土交通省の「国土形成計画(H27.8)」「国土のグランドデザイン2050(H26.7)」においても、同様の方向性が認識されている。

《目指す方向》

関東・関西・中部と並ぶ圏域となるべく、「地方創生のモデル地域」を目指して

## ○第四次中期アクションプランの重点項目【3つの将来像と各実施項目】

### I. 住みたい、働きたい、魅力あふれる北陸

(北陸各地域の個性を活かした接続型都市圏の形成による魅力の増大)

#### 1. 地域力の向上（「コンパクト+ネットワーク」による対流の促進）

- (1) 地方定着・地方回帰による定住人口増加に向けた取組み<新規>
- (2) 女性が働き続けられる社会の実現に向けた取組み<新規>
- (3) リタイア人材の活用<新規>
- (4) 二地域居住の推進支援<新規>
- (5) 魅力あるまちづくりに関する取組み<新規>
- (6) エネルギーセキュリティ強化に向けた取組み
- (7) 国等に対する提言機能の強化

#### 2. 産業振興（産学連携に基づく産業振興の促進を目指して）

- (1) 域内産業集積を活かしたものづくり拠点形成支援
- (2) 新規事業創出、産業高度化、付加価値向上のための産学金官連携支援
- (3) 新技術等の活用による産業振興支援<新規>
- (4) 企業の人材育成支援
- (5) 企業誘致
- (6) 6次産業化に資する農林水産業との連携<新規>

### II. 三大都市圏に近接する特性を活かし、日本海国土軸の中核を担う北陸

(日本海・太平洋2面活用型国土の形成に資する基盤づくり)

#### 1. 社会基盤整備

- (1) 広域社会基盤整備の推進
  - ① 関東、関西および中部との交流促進のためのアクセスの向上
    - ・北陸新幹線の敦賀までの早期開業
    - ・フル規格での大阪までの延伸
  - ② 陸・海・空一体となった人流・物流基盤の整備促進

### III. 地域の魅力を積極的に国内外に発信することにより、人や企業を惹きつける北陸

(「北陸ファン」の増大に向けた取組み)

#### 1. 国際化の促進(北陸AJEC\*と連携)

(活発化するアジア・ユーラシアダイナミズムを取り込んだ交流の促進)

- (1) 北陸地域・企業の国際化のあり方・方向性の提言
- (2) 環境変化に対応した交流事業の方向性検討・実施

\*北陸AJEC:北陸環日本海経済交流促進協議会

#### 2. 広域観光振興（観光立国を目指して地域のおもてなしを創造）

- (1) 北陸三県の観光業界が一体となった広域観光の推進
- (2) 国内外に向けた北陸の魅力のより効果的な発信
  - ・北陸新幹線ルートを加えた太平洋側との「ゴールデンループ」の形成等
- (3) 関東、関西、中部をはじめとする大都市圏との交流拡大<新規>
- (4) 観光客の増加に伴う諸問題への取組み<新規>
- (5) 新たな視点での観光資源の発掘

